

科目名	心理学研究法特講	担当者	マナベ 眞邊 カズチカ 一近	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>現代の心理学は「科学」です。科学は、仮説の提示と経験（実験や調査・観察）による検証に基づいて発展していくシステムです。心理学が科学であるためには、客観的な経験による結果を得られるかどうかにかかわらず依存します。心理学研究法は、客観的なデータを得るための実験計画および得られたデータの客観的な提示方法の学習を目的とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。 2) 事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。 		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 心理学分野で論文執筆に必要な基本的なスキル（研究計画作成・データ分析・結果の記述）を習得することを目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 客観的なデータを得ることができる。 2) 得られたデータを科学的に分析することができる。 <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 客観性の基本であるデータの「信頼性」と「妥当性」の概念の習得 2) 2種の実験計画法（グループデザインと少数例の実験デザイン）の相違の理解 3) 得られたデータの客観的な表現の手段である統計法について習得 4) グラフ作成等、具体的なデータの表現方法の習得 5) 得られた結果の報告方法（検定結果の文中での表現方法等）の習得 6) 論文執筆における書式（文献引用等）の習得 		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】（自主研究・レポート作成）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。 ・ manaba folio の掲示板を利用し、受講者同士の協働学習を行う（課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等）。 ・ 図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。 <p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>まずは、課題に従って基本教材とレポート提出システムに掲載されている資料等を読み、草稿を仕上げます。「レポート提出のためのチェック項目」に従って、自身のレポートをチェックし、不足している点について追記の上、草稿を提出します。これに対して、修正・追記が必要であるかどうか教員から指示がありますので、それに従って、再度、修正・追記の上草稿を提出します。これを繰り返して、最終稿に仕上げていきます。これらの教員とのやり取りが到達目標を達成するうえで大変重要になります。統計基礎の学習、Excel 等を用いた表計算およびグラフ作成スキル獲得、心理学研究執筆要項の学習等において、資料収集・テキストの学習に 20 時間、レポートをまとめるのに 10 時間、manaba-folio を使用したレポートの遂行作業に 20 時間、計 50 時間程度の準備学修時間を要しますので、早めに学習を始めることが必要です。</p>		
スケジュール	<p>以下のスケジュールで学習を行います。</p> <p>前期：グループデザインの習得</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) グループデザインの理論的背景の理解 2) 具体的な計画の作成方法と統計処理、および結果の表現方法の学習 <p>課題 1 および課題 2 の草稿の提出期限は、それぞれ 7 月末と 8 月末にします。最終提出期限はいずれも学事歴で定められた日とします。</p> <p>後期：少数例の実験デザインの習得</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 少数例の実験デザインの理解 2) 同じ目的をもつ研究のグループデザインによる実験と少数例の実験デザインによる実験の考案 <p>課題 1 および課題 2 の草稿の提出期限は、それぞれ 7 月末と 8 月末にします。最終提出期限はいずれも学事歴で定められた日までに提出するとします。</p> <p>修得すべきスキルが多岐にわたりますので、一回の草稿提出ですべて学習するのは困難です。早めに草稿を提出し、教員の指導を受けながら、学習を進めていきます。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	75%	<p>下記の点について評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 留意点に従って、課題について述べているかどうか？ 2) レポート提出システム (manaba) に掲載された資料を参考に書かれているかどうか？ 3) 「レポート提出のためのチェック項目」に従って書かれているかどうか？
	観察記録	25%	<ol style="list-style-type: none"> 1) 締め切り直前ではなく、1 ヶ月以上の余裕を持って事前に草稿を提出し、十分な指導を受けたか？ 2) 草稿の提出とそれに対する教員のコメントに対して十分な回答がなされているかどうか？
履修者への要望	<p>レポート提出システムにも資料が添付されていますので、必ずダウンロードして参考にして下さい。他の課題に添付されている資料も参考になりますので、全ての資料にいったん目を通してから、レポートを書き始めて下さい。また、「レポート提出のためのチェック項目」を参考に、自身のレポートがこれらの項目を満たしているかどうかチェックし、満たしていなければ満たしたうえで項目にチェックし、さらにチェックシートをレポートの最初に加え、提出して下さい。レポート提出システムに、紙ベースでは提示が難しいため、Web 上で追加の留意点が書かれています。見落とさないように、レポートシステムに書かれている留意点を注意深くお読みください。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 大山正・岩脇三良・宮埜嘉夫共著 教材名： 『心理学研究法』（サイエンス社，2005年）ISBN:978-4-78-191108-3 2,200円＋税 著者名： 岩淵千明編著 教材名： 『あなたもできるデータの処理と解析』（福村出版，2002年）I 詔N: 978-4-57-120058-8 2,600円＋税【紀伊園屋出版社からお取り寄せ（通常3日－20日で発送）】 著者名： 後藤宗理，大野木裕明，中深潤 編 教材名： 『心理学マニュアル要因計画法』（北大路書房，2000年）ISBN:978-4-76-282196-7 1,500円＋税</p> <p>第1図書は，心理学の研究法にはどのようなものがあり，その方法の基礎になっている考え方および手続きについての概説がなされている。第2図書では，結果の分析に必要な統計的検定についてどのようなデータや実験計画のときは，どのような統計を利用するのかについて，フローチャートを用いてわかりやすい説明がある。第3図書は，分散分析法について概説している</p>
参考図書	<p>南風原朝和，市川伸一，下山晴彦編『心理学研究法入門調査・実験から実践まで』（東京大学出版，2001年）ISBN:978-4-13-012035-7 2,800円＋税 大野木裕明，中津潤編著『心理学マニュアル研究法レッスン』（北大路書房，2002年）ISBN:978-4-76-282264-3 1,800円＋税 石村貞夫『SPSSによる分散分析と多重比較の手順』（東京図書，2002年）ISBN:978-4-48-902109-1 2,800円＋税 菅民郎『Excelで学ぶ統計解析入門』オーム社，1999年）ISBN:978-4-27-406546-02,800円＋税</p>
履修上のポイント	<p>心理学が科学的手法を用いていることを理解した上で，それぞれの方法論のもとになった考え方を理解するようにして下さい。レポートシステムに参考資料が掲載されていますので，必ず読むようにして下さい。また，この課題は，修士論文作成に役に立つスキルを学習することを教育目標の一つとしていますので，その中の一つである心理学領域の論文の書式も学習するようにして下さい。</p>
レポート課題 1	<p>測定の信頼性と妥当性，独立変数，従属変数，剰余変数および統制群の意味について具体的に述べよ。また，実験計画法についてまとめよ。 留意点：信頼性・妥当性の種類及びその検証方法，相関関係と因果関係の相違，剰余変数の統制の仕方，なぜ統制群が必要なのかについて説明して下さい。実験計画法では，分散（変動），主効果，交互作用の意味を説明して下さい。また，要因計画，反復測定（対応のある・なし）の意味についても記述して下さい。なお，説明を加えるときは，出来るだけ具体例をあげながら説明して下さい。</p>
レポート課題 2	<p>t検定，1要因が繰り返しのある2要因分散分析法，および2×2のχ^2検定の手順について述べた後，それぞれの検定に対応した自分で考えた架空の実験データを利用して検定を行い，その結果を報告せよ。 留意点：統計ソフトを利用して計算して下さい。このとき，最終的な検定結果だけでなく，途中の計算結果も報告して下さい。また，架空の結果のグラフも必ず加え，文章で説明して下さい。t検定は，対応のあるt検定と，対応のないt検定の両方の事例を示して下さい。また，分散のあるグラフには，エラーバーをつけて下さい。エラーバーの長さは，±1SD（標準偏差）にしてください。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： S・H・バーロー/M・ハーセン著高木俊一郎/佐久間徹監訳 教材名： 『一事例の実験デザイン「新装版」－ケーススタディの基本と応用－』（二瓶社，1997年）ISBN:978-4-93-119937-8 3,000円＋税</p> <p>本書は，一事例の研究の歴史の概説に始まり，一事例研究の科学的研究デザインをまとめたものである。それぞれの実験デザインの利点と問題点，および統計による検定法について紹介した一事例研究のバイブル的著書である。</p>
参考図書	<p>アルバート・トルートマン著（佐久間徹・谷晋二監訳）『はじめての応用行動分析』（二瓶社，1992年）ISBN: 978-4-93-119915-6 岩本隆茂，川俣甲子夫著『シングル・ケース研究法－新しい実験計画法とその応用 Keiso Psychology（動草書房，1990年）ISBN:978-4-32-610083-5 4,500円＋税</p>
履修上のポイント	<p>履修上のポイント 心理学に限らず，大標本を用いた研究ができないケースが少なからずあります。このような場合，少数例のデータを利用して，いかに科学的に研究するのか？どのような根拠にもとづいて少数例の実験デザインは考案されたのかを理解するようにして下さい。レポートシステムに参考資料が掲載されていますので，必ず読むようにして下さい。</p>
レポート課題 1	<p>少数例を用いた実験デザインにはどのようなものがあるかまとめよ。 留意点：グループデザインとの基本的な考え方の相違および，少数例の実験デザインの歴史的発展について述べた後，各デザインについて説明してください。このとき，それぞれのデザインの利点と問題点を指摘してください。また，ベースラインおよび繰り返し測定の意義，さらに，独立変数導入時に一変数導入が基本であること理由についても記述してください。</p>
レポート課題 2	<p>ある技能に対する訓練方法Aの効果について，実験的に検討したい。このとき，特別な訓練をしなくても時間経過に伴ってその技能はある程度向上し，また，一度訓練されると，元の低いレベルに戻ることはないことが知られている。このような場合，どのような実験計画を立てるか，グループデザインと，少数例を用いた実験デザインの両方の計画を考案せよ。 留意点：両デザインの違いが分かるように説明し，出来るだけ具体的な実験例をあげて下さい。また，架空の実験結果を，両デザインともグラフと文章で表現して下さい。グラフは，テキストのグラフに準拠して下さい。また，課題の実験では，グループデザインにおける統計的検定および少数例の検定が可能ですので，検定も加えて下さい。</p>

基本教材 1

第 1 回	グループデザインの歴史的・理論的背景の理解
第 2 回	測定の信頼性と妥当性の種類及びその検証方法の学修
第 3 回	独立変数, 従属変数, 剰余変数および統制群の意味の学修
第 4 回	実験計画法の学修
第 5 回	相関関係と因果関係の学修
第 6 回	t 検定、1 要因が繰り返しのある 2 要因分散分析法、および 2×2 の χ^2 検定の学修
第 7 回	検定結果の APA スタイルに準拠した表記法の学修
第 8 回	APA スタイルの作図法の学修
第 9 回	レポート課題 1: 初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1: 添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1: 最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2: 初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2: 添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2: 最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材 2

第 1 回	少数例の実験デザインの歴史的・理論的背景の理解
第 2 回	ベースライン測定の意義の学修
第 3 回	AB デザインの問題点の学修
第 4 回	ABA デザイン等の反転デザインの学修
第 5 回	マルチベースライン (多層ベースライン) デザインの学修
第 6 回	操作交替デザインや基準変更デザインの学修
第 7 回	マルチベースラインデザイン等の少数例の実験デザインで得られたデータの検定法の学修
第 8 回	繰り返し測定の影響を受ける実験のグループデザインと少数例の実験デザインを用いた実験の考案
第 9 回	レポート課題 1: 初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1: 添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1: 最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2: 初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2: 添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2: 最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証